

土砂災害の前兆現象

土砂災害から身を守るためには、日ごろから土砂災害警戒区域などの土砂災害のおそれのある箇所や前ぶれ（前兆現象）を知っておくとともに、雨の情報なども参考にし、早めに避難することが大切です。



急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)

前兆現象

- がけから小石がパラパラと落ちてくる
- がけから水が湧き出ている
- がけに割れ目が見える



土石流

前兆現象

- 急に川の水がにごり、流木が混ざる
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる
- 山鳴りがする



地すべり

前兆現象

- 地面にひび割れができる
- 斜面から水が噴き出す
- 沢や井戸の水がにごる

線状降水帯の発生メカニズム

線状降水帯は、次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなし、数時間にわたって同じ場所を通過または停滞し、長さ 50km~300km、幅 20~50km 程度の長い範囲で、強い雨を降らせる雨域のことをいいます。

線状降水帯による大雨が発生した区域では、洪水や土砂崩れなど甚大な災害が発生する可能性が高くなります。

④上空の風の影響で積乱雲が線状に並ぶ

③大気の状態が不安定で湿潤な中で積乱雲が発生

②局地的な前線や地形などの影響で空気が持ち上がり雲が発生

①低層を中心に大量の暖かく湿った空気の流入が続く

